

がん治療の拠点起工

製鉄室蘭病院
診療センター
来年6月開設

製鉄記念室蘭病院（松木高雪院長）が、がん治療の拠点として活用するなど、総合的



製鉄記念室蘭病院「がん診療センター」の新築工事安全祈願祭

ながんのケアを目指し、た中核施設「がん診療センター」の新築工事を安全祈願祭が21日、室蘭市知利別町の同病院敷地内の建設予定地で行われた。総工費は約14億円。来年6月に開設予定。

安全祈願祭には、同病院を運営する社会医療法人・製鉄記念室蘭病院の足永武理事長、松木院長ら病院関係者ほか、工事関係者ら約20人が出席。神事で玉ぐしをささげ、工事の無事を願った。足永理事長は「がんの診療態勢が飛躍的に向上する」とあいさつした。中央診療棟隣の駐車場に建設される同センターは、鉄筋コンクリ

ート造の4階建て延べ約2530平方メートル。1階には、これまでなかった放射線治療室を新設するほか、PET-CT（陽電子放出断層撮影装置）の検査室などを設ける。

外来化学療法センターは20床に倍増。抗がん剤治療の外来患者受け入れも拡充させるなど、手術・化学療法・放射線治療の3本柱による総合的な治療態勢で対応する。（松岡秀宜）